

第13回

第2章 人間としての自覚—哲学・宗教・芸術

【ライブラリー第14回】

儒家思想 ～仁と礼の広がり～

今回学ぶこと

春秋・戦国時代の中国に、諸子百家しよしひゃっかといわれるさまざまな思想が誕生した。その中の一つとして、孔子の教えに始まる儒家思想は「仁」と「礼」を重んじ、それらに基づいて、現実の人間関係をよりよくし、すぐれた政治の在り方を求めたことを理解する。さらに、孔子の思想が後の時代に与えた影響を考える。



講師

和田倫明

■ 諸子百家 ■

紀元前8世紀前半から紀元前3世紀、中国で小国が乱立し覇権闘争が繰り広げられていた時代を春秋・戦国時代と言うが、この間に起こったさまざまな学問の諸派を、諸子百家という。

戦術を研究する兵家、厳しい法律秩序による統治を説いた法家、外交交渉に奔走した縦横家、兼愛という差別のない人類愛を説いた墨家などが知られるなか、後代にもっとも大きな影響を残したのが、孔子を祖とする儒家と、老子・莊子を祖とする道家である。

■ 仁と礼の思想：孔子 ■

儒家思想の祖、孔子は、紀元前6世紀、魯の国に生まれた。両親を早くに失い貧しかったが、独学でよく学び、有力者の厩番や蔵番から次第に出世し、やがて魯国の大司寇だいしこう（法務大臣）にまでなった。しかし国政の乱れる中で職を辞し、理想の政治を実現できる仕官先を求め、50代半ばで諸国遍歴の旅に出る。十数年ののち、魯国に戻り、弟子の教育に当たって、70代半ばで没した。その言行は『論語』などに収められている。

周の時代に重んじられた「礼」を尊重し、親子兄弟間の自然な情愛にならう「仁」による人間関係をもとに、優れた徳をもつ君子が政治を行うことを求めた。「仁」は忠恕ちゆうじよ（おもいやりとまごころ）であり、克己復礼こっきふくれい（自分のわがままをおさえて古来の在り方を重んじること）であるなど、さまざまなかたちで仁は語られる。また、死後のことや超自然の事は語らないとして、あくまでも現実の世界の在り方について語ることを徹底した。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

孔子のもとには数多くの弟子たちが集まり、共同生活を送りながら、幅広い人間教育を受けた。

■ 儒家思想の発展 ■

孔子の仁の教えを受け継いだのが孟子である。孟子は人間には四端の心、すなわち「惻隱」(他者を見ていたたまれなく思う心)・「羞惡」(不正や悪を憎む心)・「辞讓」(譲ってへりくだる心)・「是非」(正しいこととまちがっていることを判断する能力)が生まれながらに備わっているので、それを伸ばすことが大切であるという、性善説を説いた。また、礼の教えに特に重点を置いたのが荀子である。

儒家思想は後代にも大きく発展し、明の時代に生まれた朱子学は、日本に伝わり江戸時代に幕府の公式の学問になるなど、影響を与え続けた。

◆ コラム ◆

孔子の弟子は3,000人と言われるが、孔門十哲など、その中でも有名な弟子たちがいる。『論語』などにもっともよく登場するのは、顔回、子路、子貢である。顔回は学問においてもっともすぐれていたが、孔子が魯国に戻って間もなく亡くなっている。孔子は一人息子の孔鯉を先立って亡くしているが、それ以上の嘆きぶりであったと言われる。子路は荒くれ者であったが、孔子に心酔し、教えを必死に守ろうとした。武勇に優れ、武官として務めるも、内乱で主人を守ろうとして残虐に殺された。子貢は明敏で弁術にも優れ、商人としても外交官としても活躍したから、官職を捨てて旅に出た孔子の経済を支えるうえでも貢献したであろう。両親を幼少で亡くしていた孔子は、妻子にも先立たれ、愛弟子二人をも失い、結局仕官もかなわなかったのだから、晩年は決して恵まれたものではなかったはずだが、子貢らに見守られて最期を迎えた。3年の喪に服するのが当時の礼であるが、子貢は倍も喪に服して、孔子の墓を守ったという。秦の時代の焚書坑儒の弾圧を乗り越え、儒学が中国で隆盛したのは、こうした忠実な弟子たちの力であったろう。